

「ゲラルでの出来事」

2021年01月20日

そこでアビメレクは、羊と牛、男女の奴隷をアブラハムに与え、妻のサラを返した。アビメレクは、「あなたの前に広がっているのは私の土地だ。好きな所に住みなさい」と言い、サラにはこう言った。「私は、銀一千シェケルをあなたの兄に与える。それは、あなたと一緒にいるすべての人に対してあなたの無罪の証しとなり、これであなたの疑いはすべて晴れる。」(創世記 20 章 14 節～16 節)

聖書には、理解しがたいことがしばしば書かれている。20 章はそのような出来事である。アブラハムはゲラルの地に入った。ここは、強力な軍隊を持つアビメレクが支配する王国であった。アブラハムは身の安全を図るために妻サラを妹と言っていた。この時、サラは 89 歳になっていたが、アビメレクは美しいサラを側室として召し入れた。異民族の女性を側室にすることは、自らの権力を誇示する手段でもあったのだろう。

ところが、神はアビメレクに現れ、「あなたは召し入れた女のゆえに死ぬことになる。彼女は夫のある身なのだ」と告げた。アビメレクは「あなたは正しい民でも殺されるのですか」と驚き、サラはアブラハムの妹と聞き、サラもアブラハムは兄だと言うので、正しい心と汚れのない手で、サラを召し入れたと訳を話した。神はアビメレクに言われた。あなたが正しい心で行ったことを知って、罪を犯すことのないように彼女に触れさせなかった。あの人の妻を返しなさい。アブラハムは預言者であるから、あなたのために祈り、命を救ってくれるであろう。もし返さないならば、あなたとあなたに連なる者は皆、必ず死ぬと覚悟しなさい、と。神は、異教のゲラルの王アビメレクに現れ、諭し、命じておられる。

翌朝早く、アビメレクは家臣を呼び集め、神からのみ告げを語り聞かせた。一同は非常に恐れた。アビメレクの家臣たちは、王に似て、極めて純真である。彼は早速、アブラハムを呼んで、「あなたは何ということをしたのか。私はあなたにどんな罪を犯したというのか。あなたは私と私の王国に大きな罪をもたらした。あなたはしてはならないことを私にしたのだ」と怒った。アブラハムは、妻を妹と偽ったことを「この地には、神を畏れるということが全くありませんので、人々は妻のゆえに私を殺すだろうと思ったのです」と言っているが、ゲラルの地の人々の方が神を畏れる信仰を持っている。アブラハムは、サラは父の娘で、妹でもある、母の娘ではないので、妻にすることができたと言いつける。さすらいの旅に出た時、私を兄と言って、身の安全を保てるように助けてほしいと頼んだ、と。異民族の地を移動することは、いかに危険であったかを示しているが、アブラハムの身勝手さは消しようがないのではないか。

アビメレクは、羊と牛、男女の奴隷をアブラハムに与え、妻のサラを返した。そしてアブラハムには「あなたの前に広がっているのは私の土地だ。好きな所に住みなさい」と言い、サラには、「私は、銀一千シェケルをあなたの兄に与える。それは、あなたと一緒にいるすべての人に対してあなたの無罪の証しとなり、これであなたの疑いはすべて晴れる」と言った。何と潔い王ではないか。妻サラの件で、アビメレクの家の人たちは胎を固く閉ざされていたが、アブラハムが祈ると、彼女たちは癒され、子どもを産むようになった。アブラハムは不誠実で、アビメレクはどこまでも高潔な王である。アブラハムが裁かれ、アビメレクが祝福に与るといふのなら理解できるが、真逆である。聖書は、神がアブラハムに約束した祝福は行いによって、変わるものではないと告げるのである。